

ゆるっと

- 主な内容**
- P1…東日本大震災被災地リポート
 - P2…4月～6月活动報告
 - P3…4月～6月活动報告
 - P4…二代目応援団長誕生ほか

e-mail:tanpopo-happy3232@opal.plala.or.jp



野口修一氏



篠原憲一氏



倉田英之氏



城戸涼子氏



東日本大震災被災地リポート

～今私たちにできること～

6月25日(土)、たんぽぽハウス主催により、西原村地域福祉センターのぎく荘において「東日本大震災被災地リポート」～今私たちにできること～という題で講演会を開き、村内外より約60人の方がお見えになりました。被災地にボランティアに行かれた方4名のパネルをお迎えし、その体験を発表して頂きました。

一人目は、野口修一氏。一級建築士で宇土市議会議員の野口氏は、震災後間もなくの3月16日、地元の若者達30名と「東日本大震災熊本支援チーム」を発足。宇土市役所を支援物資収集所にして、約200人の協力を得て支援物資20t、軽油2000ℓを宮城県石巻市、福島県相馬市、岩手県陸前高田市など、自衛隊の支援の届かない地域をまわり、支援物資を届けて回った様子を、写真を通して説明して頂きました。

二人目は、篠原憲一氏。社会福祉法人やまびこ福祉会 就労継続支援事業A型「ゴー・スロー」施設長。今回は、きょうさん(共同作業所全国連絡会)の全国理事で、熊本支部副部長でもある立場から、4月24日から30日にかけて福島県郡山市、相馬市、南相馬市の障害者福祉施設を回り、在宅の障害者の聞き取り調査と支援物資を届ける活動の様子を、写真を交えて紹介して頂きました。「車いすの方は避難所生活が出来なかつたり、精神や知的障害の子が避難所で環境が変わったことで奇声を発し、避難所を出て行くしかなく、車上生活や親せきを転々としたりしている状況でした」と、報道では報じられなかつた障害者被災者の過酷な現状を伝えて頂きました。

三人目は、倉田英之氏。西原村役場住民課主事。熊本県と市町村で合同チームを編成し、入れ替わりで被災地に派遣することが決まり、宮城県東松島市派遣「熊本チーム」として5月21日から27日にかけて自治体の業務支援を行った様子を発表して頂きました。被災者救済の自治体業務の中で、「応急の支援制度が制度上不備な点が多く、泣いて訴がる被災者に対して一緒に泣くことしかできなかった。行政には限界があり、これからは自助・公助・共助で力を合わせ、地域のコミュニティを確立させることが大切だ」と発表がありました。

四人目は、城戸涼子氏。KKT営業局営業部主任。テレビタレントや24時間テレビのディレクターを務めた城戸氏は、今年5月、国際交流NGOピースポルトが宮城県石巻を中心に災害ボランティアセンターを緊急支援的に組織していたことから、個人でピースポルトを通して現地入りし、1週間、他のメンバー達とゲートボール場にテントを張って、自炊しながら、お風呂も入れず、津波の被害にあった町の側溝のヘドロかきの肉体労働ボランティアを行った経緯を発表されました。「機会が許すならば、現地に入って自分の出来ることで支援をして頂きたい。現場でしか学べない貴重な体験がある。それ以外でも自分に出来ることを何か行動に移してほしい」と訴えられました。

4名のパネルのそれぞれの視点での発表により、立体的に被災地の状況が見えてきました。報道では知らされていない過酷な被災地の状況は、集まった者に衝撃を与えました。休憩を挟んでのパネルディスカッションでは、それぞれの体験を通して、これからどうすべきか様々な意見が交わされ、「今私たちに出来ること」、そのことを集まった一人一人が考え始めていました。

たんぽぽ活動報告4月～6月

熊本空港物産市



4月15日(金)から21日(木)までの一週間、熊本空港物産市にてたんぽぽハウスのブースを設けて頂き、たんぽぽ製品と西原村の物産を販売させて頂きました。たんぽぽ製品としては、味噌・ピーナッツ和えの素・地胡麻油・水煮筍を販売致しました。震災直後ということもあり、外国からの旅行者や国内旅行が自粛ムードの中、苦戦を強いられる一週間になりそうだと懸念されました。案の定、今だかつて無いほど空港利用者が激減していました。しかし、週末に西陣レディースゴルフ大会が開催され、ゴルフ関係者、芸能人、マスコミ関係者など、一挙に大勢熊本空港に降り立ち、物産市にも立ち寄って頂きました。他では手に入らない商品を手にとって、一人でたくさん買って行かれるお客さんもありました。

竹の子収穫作業

4月上旬、例年より半月ほど遅れて竹の子掘を始めました。今年の冬は、寒かった為か、どこの竹の子も出が遅く、2、3週間ほど遅れているとのことでした。一年ぶりに竹山に皆を連れて行くと、落葉の下からひよっこり黄色い頭をあつちこつちから覗かせていました。掘り方を教えると、皆それぞれにスコップや鍬を持ち、竹山に散らばり、掘り始めました。丁寧に掘る人、沢山掘る人、1本掘るのに半日かかる人様々でしたが、約1時間でコンテナ6杯分も取れました。竹山には、天然の三つ葉も自生しており、ミツバの収穫も沢山ありました。春の恵みに感謝する、素敵な季節の到来です。



筍水煮製造始めました。



収穫した竹の子は、すぐにたんぽぽに持ち帰り、その日のうちに大きなタライに入れて泥を落とし、皮をむきます。それを縦割りにし、大きな鍋を3つ使って約1時間、米ぬかを入れて炊きます。米ぬかは、竹の子に付かないように出汁袋に入れます。一晩置いた筍は、水を替え、5パーセントの酢水で30分ほど炊きます。冷ました筍をきれいに成形し、重さを量って専用の袋に綺麗に並べて入れ、真空包装して、袋ごと30分炊きます。その後すぐに冷水で冷やすと3カ月から5カ月もつ竹の子の水煮が出来上がります。たんぽぽの新しい製品として今年より販売致しました。大変美味しく使いやすいためお客様に大変好評でした。

高遊窯ピエントコンサート

4月29日(金)、毎年恒例の高遊窯ピエントコンサートに参加しました。毎年この時期に開かれる西原村の窯元さんによる「窯開き」のオープニングを飾るこの高遊窯ピエントコンサートは、今回で5回目。五月晴れとなったこの日、高遊窯の裏庭にある特設会場には200人を超えるお客さんが見えられました。今回は、焼きそば、豚汁、コロッケ、高菜稲荷、御茶などを販売。常連のお客さんからは「今年はお好み焼きじゃないの?」「コロッケ美味しかったからまたちょうだい。」などとお声をかけて頂きました。森林の中のコンサート会場では、小鳥のさえずりや、森から流れてくる爽やかなそよ風、木々の木漏れ日、美しい音楽。しばし、天国のようなひと時を過ごさせて頂きました。



薩摩芋苗植え



6月2日(木)、布田地区にあるたんぽぽハウスの畑約3反に薩摩芋の苗を植えました。コンテナ7杯分の苗をメンバー12人で約2時間掛って植えました。高畝に30cm間隔に1本ずつ植えて行きます。間隔の広い人、狭い人、植えるのが早い人、遅い人、様々ですが、みんな一生懸命に植えています。6月に植えた薩摩芋は、夏の間、除草しながら管理をし、無農薬・無肥料で栽培します。出来た薩摩芋は、冬のイベントやチャリティーなどで、芋天や薩摩芋のお菓子を作って販売します。見かけた際は、是非お買い求め下さい。

西原保育園園児訪問

5月24日(水)、たんぽぽハウスに、小さな可愛い訪問客が訪れました。西原保育園のふじ組さん24名とさくら組さん21名です。小さな体に大きなアルミ缶の入った袋を沢山抱えてきてくれました。挨拶の時、「たんぽぽハウス知っている人？」と聞くのと、「はい、アルミ缶と新聞紙集めてるとこ！」と返事が返ってきました。挨拶の後、仲間達と一緒にアルミ缶つぶしを体験してもらいましたが、体が軽すぎて上手く潰れない様子だったので体を持ち上げてあげ、両足で潰してもらいました。みんな楽しそうに順番が待ちきれない様子でした。順番が来ると手を挙げ、大きな声で返事をし、万歳しながら持ち上げられると勢いよく両足で踏み潰していました。元氣な園児達からたんぽぽハウスのメンバーも沢山元氣をもらいました。



タイからのお客さん



5月28日(土)、一日の作業が終了し、皆でお茶をしていたところ電話がかかってきました。それは、熊本タクシーの運転手から「今、タイ人の4人のお客さんに乗せており、近くで自然農法をしておられる方のところへ行きたいと言われ、色々探し、ある方からたんぽぽハウスを紹介されたので伺ってもよろしいでしょうか?」ということでした。二つ返事で承諾し、しばらくして4人のタイの方が見えになりました。大学の教授で、農業の研究をされているらしく、その方の家族と通訳の方でした。たんぽぽハウスのこれまでの経緯や仲間達との農作業の話をする、感激された様子で、たんぽぽハウスの加工品など沢山買って行かれました。たんぽぽハウスもいよいよ国際的になって来たのかもしれないですね。

恒例初夏の苺狩り

6月4日(土)、宮山地区の苺農家、中村辰則さんのご厚意で、毎年出荷の終わった苺のハウスで、残った苺の収穫体験をさせて頂いておられます。この日を仲間達や子供達はもちろん、ご家族やスタッフも毎年楽しみにしています。ハウスの中は、苺の甘い香りが漂っていました。ハウス内は30℃以上の蒸し暑さ。それでも、約一時間の収穫では足らず、呼びかけても戻ってこない人もいました。沢山の採れたイチゴの前で記念写真を撮った後、皆で平等に分け合いました。たんぽぽハウスに戻って、たんぽぽ特製カレーの昼食をとりながら、苺狩りの話で盛り上がりました。



菊池養護学校から実習生



6月14日(火)から24日までの2週間、菊池養護学校から実習生が来ました。西原村袴野出身の広瀬史弥君(17歳)。最初は少し緊張気味な様子でしたが、皆と内職作業をしたり、当番でカレー作りを手伝ったりしているうちに仲間達と自然と打ち解けていました。たんぽぽハウスの仕事は、農作業やたんぽぽ製品作り、内職作業などその人に合った作業をしてもらおうようにしています。実習生の広瀬君は、農作業や内職作業も進んで行い、真面目に一生懸命にやる子で、仲間達の冗談には満面の笑みで笑うとっても明るい子でした。2週間の実習が終わり、暫く経ってお礼の手紙が届きました。そこには、「カレー作りが楽しかったです。ありがとうございます。来年、学校を卒業したら是非、たんぽぽハウスに来てください。」

RKKラジオ生出演!

6月14日(火)、RKKラジオ「太田黒浩一の今日も元気!」の取材クルー、MIMI G O!が、たんぽぽハウスの取材にやってきました。30分ほどの簡単な打ち合わせの後、すぐ9時からの生放送が始まりました。仲間達がインタビューを受け、梅雨の晴れ間を見つけては作っていた「ピーナッツ和えの素」作りの様子をラジオで伝えてくれました。MIMI G Oのスタッフは3年前に冬灯りの取材で一度たんぽぽハウスを訪れており、施設が大きくなったことや、メンバーが増えたことなどを自分達のことのように喜んでくれました。



夏祭り・各種イベント出店承ります！



たんぼぼハウスでは、沢山の方のご協力を頂き、各地区のイベント、夏祭り等にてバザーなどの出店をさせて頂いております。お好み焼き・焼きそば・イカ焼き・タコ焼き・ホットドッグ・手作りコロッケ・稲荷寿司・焼き鳥・唐揚げ・芋天・特製カレー・かき氷など、イベント先のご要望に応じて様々にご用意いたしております。参加の目的といたしましては、仲間達と地域の方々とのコミュニケーションを通して、社交性を身につけること。仲間達の賃金への還元。何より、仲間達が祭りを楽しむことを大事にしています。地域を盛り上げるためにぜひご協力させていただきます。詳しくは、たんぼぼハウスまで。

二代目 応援団長 誕生！

「ゆるっと」を読まれている100名を超える応援団員の皆様、初めまして。今般、二代目たんぼぼ応援団長になりました若鍋敬治と申します。私は、東京から西原村に引っ越してきました。今年で村民3年生になります。普段は、司法書士という法律関係の仕事をしております。

私がたんぼぼハウスさんとかかわりを持ち始めたのが、西原村住民課にてボランティア登録をしたいと伝えたところ、西原村社会福祉協議会を紹介して頂き、すぐに登録しました。「一番人出が必要としているのが、たんぼぼハウスさんですよ」と聞きましたので、早速、挨拶に伺い、お手伝いをさせて頂くことになりました。ワンコインランチ、バザー、作業等のお手伝いを通じて、たんぼぼの仲間達と一緒に沢山の経験をさせて頂いております。たんぼぼハウスさんは、いつも笑いが絶えなくて、ワクワク楽しいところです。これからも、応援団員の皆様と一緒にたんぼぼの仲間達を盛り上げていきましょう。よろしくお願ひ致します。



若鍋敬治 司法書士
葛西総合事務所
阿蘇郡西原村小森 1236
TEL096-349-4994

たんぼぼハウスでは、7月よりサマータイム制を導入しました。日中がとて暑くなるこの時期、仲間達が農作業に向かう時間帯に、農家の方が農作業を終わられて帰られ、よくすれ違いますが、仲間達の中には遠方から通っている人たちもいて、農家の方達のように早く始められないのが現状です。しかし、炎天下での作業は、はかどらないばかりか、熱中症の危険もあり、早朝の涼しいときに始めた方がいいです。そんなスタッフの心配とは裏腹に、日増しに日焼けしてたくましくなっていく仲間達や、昼食のサラダを何倍もお代わりし、モリモリ食べている仲間達を見てみると、ここに来た当初、覇気がなく、青白い顔とガリガリな体で偏食ばかりしていた仲間達の姿を思い出しながら、「ずいぶんたくましくなりました」と、一人うれしく思う今日この頃なのです。

編集委員 久保田



たんぼぼハウスに新しい仲間が増えました。マルチーズの「まる」ちゃんです。6月15日、西原村役場住民課が保護していたマルチーズを仲間達が気に入り、保健所で殺処分されるなら、飼い主が見つかるまでの間、引き取りたいと希望が出ました。住民課の犬の保護舎がたんぼぼハウスの目の前にあり、悲しそうな泣き声が聞こえていたのです。下小森の側溝で保護されたまるちゃん。心当たりの方がおられましたらたんぼぼハウスまでご連絡ください。

新しい仲間が増えました。

行事予定表

7月	きょうされんボーリング大会 真和館ふれあい交流会
8月	6日 布田夏祭り 13日 萌の里夏祭り 20日 高遊夏祭り 21日 24時間テレビ 27日 西原村夏祭り
9月	大津中学校職場体験 24日みどりの館敬老秋祭り たんぼぼ感謝祭